



第 143 号

平成22年12月28日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課

(題字は初代学長 山田守英氏)



初冠雪 (高原沼)

(写真撮影：学生支援課)

教授就任にあたり……………藤田 智…………… 2	クリスマスコンサート 室内合奏団……………24
教授就任にあたって……………高草木 薫…………… 3	合唱部……………24
平成22年度医学科第2年次後期編入生入学式…………… 4	ブラスアンサンブル……………25
学生表彰式…………… 4	外国人留学生交流事業……………25
授業評価(平成22年度前期)…………… 5	教員の異動……………26
ブラスアンサンブル「OB演奏会」……………23	インフォメーション……………26
秋のコンサート2題(室内合奏団・ギター部)……………23	平成23年度授業料の一括納付について……………26



教授就任にあたり

救急医学講座 教授 救命救急センター 部長 藤田 智

本年1月に急逝された郷先生の後をついで、本年9月9日付で旭川医科大学救急医学講座教授を拝命しました。大学側のご配慮?で「救急の日」より教授となりました。

私は、昭和56年に札幌医科大学を卒業後、札幌医科大学の麻酔科に入局し、市立旭川病院、旭川赤十字病院で勤務させていただいていましたので、旭川はなじみのある町です。その後、旭川医科大学麻酔科蘇生科に呼んで頂いたあと、郷先生が救急医学講座の教授になられたときに、救急部門で一緒に仕事をさせていただくことになりました。

その郷先生が亡くなられてから、一部の仕事を代行させていただいて郷先生の忙しさがようやくわかりましたが、遅きに失した感がいなめません。もう少し郷先生の仕事に協力できたのではないかと考えています。こんなに忙しいのなら教授は割に合わないかと内心思っていたのですが、幸い、私の周りには、色々気を使ってくれる先輩、後輩の医師、看護師、コメディカルの方々がたくさんいて思っていたよりも今のところは仕事に負担を感じずにすんでいます。たぶん郷先生に比べて頼りなさそうな私ですので、皆さんが色々気遣ってくれているのではないかと考えています。

郷先生に道筋をつけていただいた救命救急センターがようやく10月よりオープンしました。ハード面ではだいぶ整備されてきていますが、まだまだ

ソフト面では救急という文化に慣れていないところもあって日々改善中です。産みの苦しみもあるのですが、新しいものをみんなで作り上げるという楽しみもあり、毎日楽しく仕事をさせていただいています。僕が楽しく仕事ができているのは、救命救急センターの柴山師長をはじめとする看護スタッフの働きが大きいことはいうまでもありません。あまり普段感謝しているということを書いていないので、この紙面を借りて言っておきたいと思います。

さて、大学の使命は、臨床、教育、研究といわれています。臨床に関しては、まだまだ未熟なところはあると思いますが、皆様に協力いただいて、救命救急センターになってよかったねと皆様方から、将来言われるようになればと思っています。教育に関しては、道北圏で従来から行ってきたOff the Job Trainingを精力的に進めるとともに、大学内において救急という文化に親しみを持つ医師、看護師、コメディカルの方々が増えるように努力をしていきたいと思っています。研究に関しては、いずれガイドラインを支えるような研究ができればと考えています。

今後教室のスタッフ、救命救急センターのスタッフ、そして、皆様と一緒にちょっと欲張りに[Dream comes true.]ではなく[Dreams come true.]を目指していきたいと思っていますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



教授就任にあたって

脳機能医工学研究センター 教授 高草木 薫

この度、旭川医科大学・脳機能医工学研究センターの運営を任されることになりました高草木です。この紙面をお借りして、ご挨拶させて戴きたいと存じます。私は旭川医大の第6期の卒業です。卒業後、研修を受けることも無く、生理学第二講座（現；生理学講座・神経機能分野）の大学院生となりました。研究には一度は関わることは必要と思いましたが、研究で生きていくということは全く考えませんでした。臨床実習の際に、当時、旭川市立病院の胸部外科におられた久保田先生（前・名寄市立病院・院長）から、外科医は人間としての厚みがなければいけない。しっかりとした学問を身に着けることが重要とのお言葉を戴きました。そこで、そうか、臨床医は学問が必要なのだという思いから、当時、旭川医大で最も厳しい先生と評判だった、森茂美教授が主催する生理学第二講座（現；生理学講座・神経機能分野）の大学院生として研究生活を始めることとなりました。結局、外科医になることができないまま、現在に至ってしまいました。

大学院での生活は、精神的にも肉体的にも評判通りの厳しいものでした。当時、月一回の病院の当直（土日）で10-12万円の収入がありました。これで生計を立てる訳です。そんな月一臨床医として働く中での経験もかなり壮絶でした。特に、強烈に覚えているのは、道東の遙か彼方の病院で骨盤位のお産をすることになったこと、挿管し、開胸心マッサージをしたこと、8時間以上の蘇生が成功したこと（精根尽きました）こと、などなど・・・でも、骨盤位のお産も鼠蹊部からのIVHの確保も、挿管も、開胸心マッサージのやり方も、全て、旭川市立病院と日赤旭川病院の臨床実習で教えて戴いたことです。その頃の旭川医大以外の病院の先生の多くが北大や札幌医大の先生でした。そして、今のように、卒業研修で市立病院や日赤病院の研修医として働くことなどを想定することが無かった訳ですが、出身

大学に関係無く、真剣に臨床実習で指導して戴いたことが忘れられません。実際に、私が教わった臨床現場での経験の殆どが臨床実習でしたからそのお蔭で生計を立てることができた訳です。

私の研究の基本は臨床的基礎研究です。テーマは大学院の頃から研究は一貫して「筋緊張の調節機構」です。骨格筋の緊張力を筋緊張と呼びますが、様々な運動疾患や睡眠関連疾患において筋緊張の異常が出現します。また、筋緊張の異常は運動機能の異常として出現することが多いので、歩行運動と筋緊張との関連性が私の研究対象になりました。その後、研究が進捗するにつれて、その内容はパーキンソン病などの歩行障害やナルコレプシー・睡眠時異常行動症候群などの睡眠障害の病態に関するものへと変遷してきました。一方ロボット工学の研究者とともに、ロボットを歩かせることと歩行障害を克服することにも挑戦しています。さらに脳の可塑性に基づくリハビリテーション法の考案にも取り組んでいます。これまで、数多くの臨床神経学の先生方や工学研究者宛、そして、リハビリテーションの先生方との交流の中で培った知識と経験をもとに脳機能医工学研究センターでは、一層の脳研究の推進と運動や社会行動における適応機能に関する基礎研究、さらには、適応機能の再建（適応障害の克服）を目指す応用研究を推進するつもりです。また、広い意味でのホスピタリティーの問題にも関わりたいとも考えています。任期は5年ですが、5年間も研究を続けられることは非常に有難いことです。そして、最大の目的は現場での教育です。嘗て私はして戴いたように、本学のみならず、多くの若い方々に対して出来るだけの努力を持って、これを推進したいと思います。ですから、みなさん、是非お立ち寄りください。そして、今後とも、ご指導、ご鞭撻を承りたく存じます。

平成22年度 医学科第2年次後期編入生入学式

平成22年度医学科第2年次後期編入学生の入学式が平成22年10月1日(金)午前10時00分より事務局第一会議室において執り行われました。

当日は、吉田学長より編入学生に対して祝辞が述べられ10名が旭川医科大学生としての新たな一歩を踏み出しました。



編入学生は以下のとおりです。

伊 東 孝 晃	井 上 真 澄
熊 谷 典 子	馬 場 周 平
福 山 秀 青	細 田 伸 一
堀 内 至	松 尾 康 博
山 田 菜 月	横 山 大 輔



学 生 表 彰 式

平成22年10月26日(火)及び11月30日(火)に事務局第一会議室におきまして本学学生表彰規程の第2条の(2)「課外活動で特に顕著な成果をあげた者又は団体」により優秀な成績を修めた学生に対して学生表彰式が執り行われました。

当日は吉田学長より表彰状と記念品が授与され、輝かしい成績に対して祝辞が述べられました。



表彰者は以下のとおりです。

平成22年10月26日(火)表彰

第44回全日本医科学生体育大会王座決定戦
ソフトテニス個人戦(ペア) 優勝

医学科第6学年 久 保 智 紀
医学科第3学年 須 藤 和 樹

平成22年11月30日(火)表彰

第53回東日本医科学生総合体育大会

柔道競技男子個人戦無差別級 優勝

医学科第3学年 河 野 通 久

第53回東日本医科学生総合体育大会

柔道競技女子個人戦 優勝

医学科第1学年 小 林 亜 莉 沙

第53回東日本医科学生総合体育大会

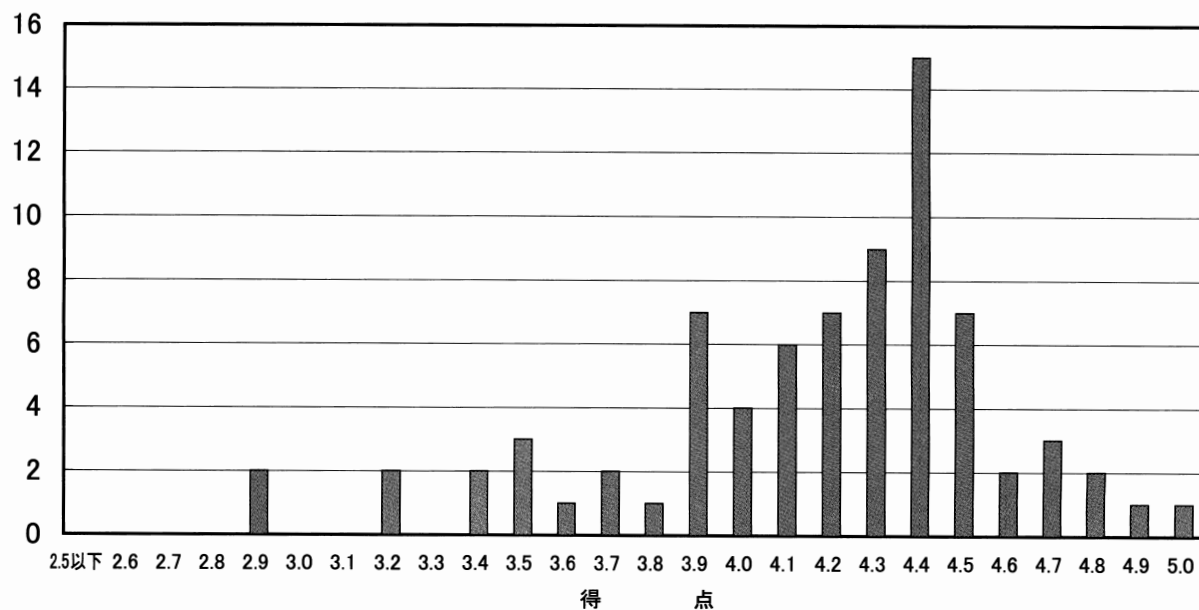
弓道競技男子個人戦 優勝

医学科第5学年 清 水 福 太 朗

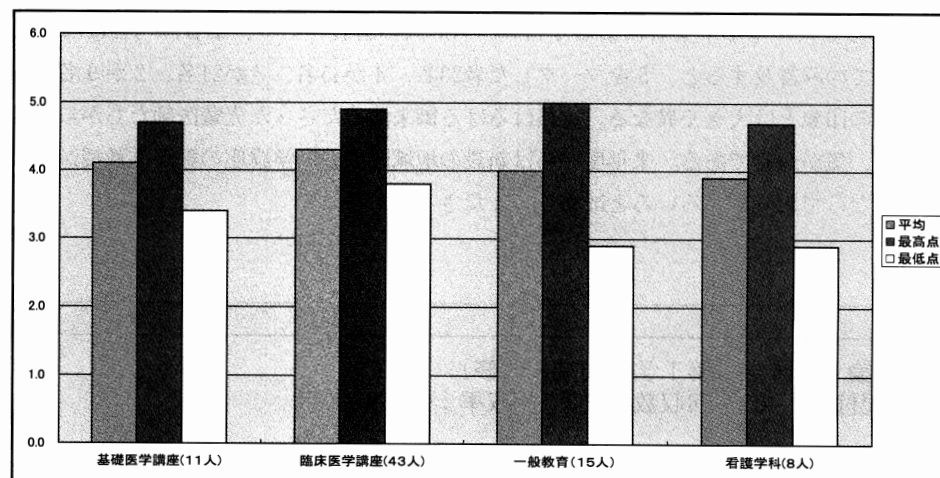


平成22年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																									
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2	3	1	2	1	7	4	6	7	9	15	7	2	3	2	1	1



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間および教員間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 各担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この科目は全体として満足できるものでしたか。 ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い） ③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない） ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：地域医療学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：112 配付数：112 回収数：110 回収率：98.2%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.8	3.8	2.2	4.0	4.0	3.9	4.1	3.8	3.9	3.8	3.7	3.6	3.8

*評価に対するコメント

地域医療学科目責任者 藤 尾 均

地域医療に貢献する6人の本学卒業者によるオムニバス形式の講義であり、筆者は司会にほぼ徹した。問14（総合評価）についてのみ言及すると、5をマークした者23名、4が45名、3が21名、2が9名、1が2名であった。残念ながら私の印象とは大きく異なる。遠路はるばる御来演くださった先輩医師たちから学生諸君はいったい何を学んだのか、気がかりである。来年度からは新設の地域医療教育学講座の野津准教授がコーディネートしてくださることになっており、いろいろと改善してくださるであろう。

科目名：医療概論1（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：113 配付数：103 回収数：103 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.5	3.8	2.3	4.2	4.0	3.9	4.2	3.8	3.9	3.8	3.7	3.7	3.9

*評価に対するコメント

医療概論1科目責任者 藤 尾 均

問14（総合評価）についてのみ言及すると、5をマークした者30名、4が37名、3が23名、2が9名、1が1名であった。2または1と評価した学生が1割もいるのはどうしたことか。私としては、授業には例年になく努力を傾注したつもりであり、反省すべき点はほとんど思い浮かばない。学生が「授業評価」ではなく「試験の難易度評価」のつもりでマークしたのなら、この評価にはかなり納得できる。

科目名：情報統計学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：119 配付数：114 回収数：111 回収率：97.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.1	3.8	3.0	3.6	3.8	3.5	3.9	3.2	3.0	3.4	3.2	3.4	3.5

***評価に対するコメント**

情報統計学科目責任者 **山内 一也**

情報統計学の授業内容は、コンピューターリテラシーと統計学の初歩を学ぶことにある。コンピューターリテラシーはクラスをA組、B組の2クラスに分け、担当教官には負担増となるが、週2回の授業を展開している。「あなた自身について」という評価の項では、2.3、4.1、3.8、3.0という評価であるが、出席状況の評価が高いのは、コンピューターリテラシーでは毎回レポートを提出しなければならないこと、統計学の授業では、毎回小テストを行うという授業形態によるものであると思われる。「科目構成」という評価の項では、3.6、3.8、3.5、3.9という評価なので一応の評価を受けたと考えられる。「科目内容」という評価の項では、3.2、3.0、3.4、3.2、3.4と前回と同じ評価であった。「総合評価」では3.5という評価なのはまあまあ評価を受けたと考えられる。

科目名：心理学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：112 配付数：110 回収数：105 回収率：95.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.4	3.9	2.7	3.9	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	3.9	4.2

***評価に対するコメント**

心理学科目責任者 **高橋 雅治**

本講義の目的は、全人的な医療の実践に必要な心理学の基礎知識を体系的に修得することであった。講義は基礎心理学・臨床心理学・発達心理学の3分野からなり、コーディネーター自身が全講義を担当した。

科目構成（問5から問8）の評価結果は3.9から4.2とおおむね良好であった。科目構成についての評価と科目内容についての評価は、どちらも3.9から4.2と高かった。だが、コメント欄では、「板書が読みにくい」、「かけ足気味」という意見が寄せられた。一方、総合評価は4.2と比較的高い結果であった。

全体的に高い評価が得られた理由としては、各分野の基礎知識を精査して講義したこと、プリントを毎回配布したこと、全てのプリントを綴じると心理学の入門書となるように全体を構成したこと等が考えられる。一方、講義が早すぎる等と感じる意見については、次年度以降の反省材料としたい。

科目名：医療概論2（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：105 配付数：97 回収数：77 回収率：79.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.6	3.5	2.6	3.8	4.1	3.9	4.0	3.9	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8

***評価に対するコメント**

医療概論2科目責任者 **西條 泰明**

医療概論2では、医療や臨床研究に関する倫理・哲学的な内容が中心で、医師として適切に社会へ対応できる考え方を築く重要な科目です。しっかり予習・復習をしていただきたいと思います。3人の講師が独立して行うため、あらかじめ評価方法について示しておきましたが（配点、レポート or 試験）、一部に、試験の形式が記述問題であったことへの不満が書かれていました。試験・レポートの情報提供は各講師の判断に任せておりますが、今後は、学生間で不公平が生じない可能な範囲で情報提供をしたいと思っております。

科目名：組織学（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：105 配布数：100 回収数：57 回収率：57.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.4	4.0	4.0	3.4	4.1	3.9	3.6	4.1	3.2	3.3	3.5	3.6	3.0	3.5

***評価に対するコメント**

組織学コーディネーター及び授業担当教員 **渡部 剛**

新カリキュラムでは、本科目の開講時期が2年次前期に変更となったため、並行して開講されている免疫学の講義との重複を考慮して本科目における病理学のコマ数・内容を吟味・整理し、浮いた4コマ分で組織学の理解に必要な肉眼解剖学の要点に関する講義を加えた。この変更に関連して学生からの評価に大きな変化は認められなかったが、科目全体の構成は向上したのではないかと思う。

科目名：免疫学（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：105 配布数：100 回収数：44 回収率：44.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	3.8	3.7	2.8	4.0	3.7	3.7	4.1	3.9	3.6	3.7	3.9	3.8	4.0

***評価に対するコメント**

免疫学科目責任者 **立野正敏**

今年度の科目構成についての問5～8について、評価ポイントは3.7～4.1であった。また科目内容については、問9～13では3.6～3.9ポイントとなった。講義内容としては、免疫システムを広くカバーしているため、学生の意欲により理解度に差が生じると考えられるが昨年度よりポイントは上昇している。学生の自学自習の自己評価ポイントも問1（2.6）、問4（2.8）と昨年より上昇したが、多くの学生は、自己理解度評価を適宜いい、積極的に取り組む姿勢が必要と思われる。また、今年度より2回の試験で評価することとしたため、1回ごとの試験範囲が半分になり、集中しやすくなったと考えられる。

科目名：生化学1（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：105 配布数：104 回収数：86 回収率：82.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	3.8	3.5	3.1	3.8	3.6	3.4	3.9	3.3	3.2	3.5	3.3	3.4	3.7

***評価に対するコメント**

生化学1科目責任者 **鈴木 裕**

生化学1は、生化学2および基礎医学Iといった一連の基礎医学系科目の出発点として、また生化学実習のための基本を学ぶ科目としての意義を持たせてあります。複雑な代謝反応とその制御、それらによる病態発症など、生命現象を分子レベルで理解する“生化学”の重要性を認識し興味を持って学習できるように継続的に改良しています。講義ごとの小課題により重要ポイントを復習していただく、また講義日程終了後でしかも生化学実習の開始前に単位認定試験を実施するなどの工夫により学習効果をあげるよう企画しております。授業評価では問1と問4（自身の予習・復習）の評価点が顕著に低い（2.4、3.1）ことが極めて残念です。今後、各自の発奮を期待します。他方、自由記載のコメントを深慮し、毎回の小テストの答えを、これまでの方法（テキスト・教科書の解答記載場所を明記する方法）に加え、解答が直接的に示されるように工夫します。学生の皆さんには、日々の予習・復習及び小課題レポート提出など、自学自習の習慣を身に付け、さらに徹底していただきたいと思っております。

科目名：生化学2（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：105 配付数：96 回収数：62 回収率：64.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.1	3.8	3.5	4.1	4.1	3.8	4.1	3.1	3.1	3.6	3.5	3.2	3.6

***評価に対するコメント**

生化学2科目責任者 **鈴木 裕**

生化学2は昨年度までの生命科学Ⅹと基礎医学Ⅰでの生化学分野内容を一科目にまとめたものであり、代謝とその異常による病態を一連の講義展開により分子レベルで理解できるようにカリキュラム改良されたものです。毎回の講義では小テストやレポート課題により重要ポイントを復習していただき各自が学習効果を高められるよう企画しています。授業評価では、問1（自身の予習2.7）と問9、10の難易度・理解しやすさ（共に3.1）の評価点が顕著に低いことが極めて残念です。単位認定本試験での得点率がきわめて低かったことと一致しています。本科目の内容は、生命現象を分子レベルで学ぶものであり医学の基礎を成すものです。本科目実施前に展開された講義に比較し分量や難易度が増していると感じることはあるかもしれませんが、本科目習得の必要性と今後展開される基礎および臨床医学の学習に備えるためにも、予習・復習及び小課題レポート提出など、日々の自学自習の習慣を身に付け、さらに徹底していただきたいと思えます。

科目名：医用機器学（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：105 配付数：99 回収数：54 回収率：54.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.4	3.6	2.4	3.8	3.0	3.6	4.1	3.6	3.0	3.7	3.4	3.6	3.6

***評価に対するコメント**

医用機器学科目責任者 **田中 邦雄**

「生命科学Ⅺ」を改編して、今年度より「医用機器学」として第2学年前期に開講した。医用画像診断機器を中心として医用工学、放射線物理学などに関連した内容を含んでおり、理解のしやすさは3.0と最も低かった。しかし、総合評価は3.6であり、回答者の半数は4.0以上の評価であった。また、前期試験の平均点は70点であったことから、まずまずの理解度が得られていると考える。なお、教員間での内容の重複の指摘もあり、評価の向上を目指して改善に努めたい。

科目名：医学英語Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：94 配付数：69 回収数：34 回収率：49.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
4.0	4.9	4.4	4.2	4.3	4.6	4.6	4.4	4.4	4.6	4.3	4.6	4.6	4.6

***評価に対するコメント**

医学英語Ⅲ科目責任者 **内藤 永**

学生がそれぞれのニーズに合わせて、4人の英語教員が展開する4つの授業から1つを選択する形式のため、総じて学生の評価が高かったと考えられる。この授業は初回到履修目的を説明するガイダンスを実施しているが、それにも関わらず問5の評価が低めであったので、ガイダンスの内容に工夫が必要かもしれない。この授業の履修目的は、将来仕事をする上で必要な英語力を磨くことであるので、問11の達成度が低いことは大きな問題ではないだろう。

科目名：臨床医学概論Ⅰ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：92 配付数：81 回収数：65 回収率：80.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.4	3.7	2.7	3.7	3.8	3.9	4.1	4.2	4.1	4.1	3.8	4.2	4.1

***評価に対するコメント**

臨床医学概論Ⅰ科目責任者 **吉田 貴彦**

社会医学領域について4学年の「社会医学」と3学年で倫理的課題と臨床科目展開前でも理解しやすい内容を「臨床医学概論Ⅰ・Ⅱ」で扱う。総合評価4.2はこの3年間で最も良い評価であった。全項目で評価が上昇し、重複回避や各教員の改善取組みの成果と思われる。例年「学習意欲を高めるものか」は評価が低いが、一部の学生の評価が低く社会医学領域の内容への理解が得られなかった。また自由記載から推察するに過去のまとめ資料で学習した学生がいるのではないかとと思われる。社会医学領域は法や制度が変わることから新しい資料で学習することが必要である。

科目名：臨床医学序論（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：92 配付数：78 回収数：44 回収率：56.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.9	4.4	3.5	1.8	3.0	4.2	3.7	3.8	3.9	3.7	3.6	3.8	3.3	3.5

***評価に対するコメント**

臨床医学序論科目責任者 **奥村 利勝**

各臨床講座の全体像の紹介（例 内科学とは）で講義を構築してきました。臨床医学全体像を見渡す意味では各論の前に行われる意義は大きいと考えております。授業評価に関しては、全体的な満足度が3.5で昨年の4.1で一昨年の3.8に比べてかなり低下しており、全く満足できるものではありませんでした。これまで、数年間の授業内容と今年の方針性に大きな違いがなかったことから、著しい評価点の減少が何によるのか現時点では未解明です。興味を持った臨床分野についてのレポートをみても、それぞれの学生の興味が広く分布していることもわかり、このような臨床の総論的な講義は今後の参考になると考えます。臨床医学の各分野の総論を、集中的に開講するか、また各分野の各論に先立って各々行うかは色々な立場から議論されるべきではないでしょうか。

科目名：医療情報学（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：93 配付数：86 回収数：83 回収率：96.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.3	3.5	2.4	3.9	3.9	4.0	4.1	4.0	3.8	3.9	3.3	4.0	3.8

***評価に対するコメント**

医療情報学科目責任者 **廣川 博之**

本講義は、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成されている。これらはいずれも医療人として習得しておきたい領域である。しかしながら、問12の結果にもみられるように、本講義の開講時期が臨床医学を学ぶ前であるためか、学習意欲を増すものでないとの評価がやや多かった。学生諸君が興味を持ち、学習意欲を増す講義内容とするよう検討したい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅰ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：94 配付数：94 回収数：29 回収率：30.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.6	4.1	2.9	3.9	3.4	3.5	4.0	3.7	3.6	4.1	4.2	3.6	4.1

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅰ科目責任者 **長谷部 直 幸**

臨床の最初に接する系統講義として、学生諸君の期待に応え意欲を喚起するものでありたいと願います。緊急手術等の臨床業務のために休講が重なる先生がおられた事は遺憾です。循環器・呼吸器の内科・外科・小児科を網羅する講義であり、常に生命に直結する不測の事態を抱える各担当者の講義をコーディネートする難しさはありますが、調整作業に対する我々の努力不足は反省しなければなりません。総合評価4.1は、数字としてまずまずであるものの、むしろ回収率30%の意味するところが気がかりです。満足なのか、あきらめなのか、無言の抵抗なのか。純粋な学習意欲に基づく学生の正当な批判が、講義内容を改善します。学生と教師が互いに刺激し合う好循環の中で、医学を究める充実した講義が展開されることを望みます。

科目名：臨床医学概論Ⅲ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：100 配付数：81 回収数：12 回収率：14.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.7	5.0	3.2	1.5	3.9	4.0	3.6	4.4	4.2	3.9	3.9	3.3	3.7	3.4

***評価に対するコメント**

臨床医学概論Ⅲ科目責任者 **奥 村 利 勝**

必修コース「医学概論Ⅲ」は臨床の現場では特に重要であるコメディカルの業務を理解し、チーム医療の重要性を認識してもらう狙いがある。4年生の前臨床実習の段階でのコースであり、本コースでの各コメディカルのお話は臨床実習以降の充実につながることを期待している。今年の総合評価は3.4で、昨年の3.3と同様に低い評価であった。この低評価を受け止め、満足度の高いコースへ工夫する必要がある。しかし、本コース以外には卒前卒後にもまとめてコメディカルから直接、各部門の業務についてを聞く機会はない。卒後、臨床医として第1線で働く際には、このコースで勉強した事が各自の役に立つものと信じている。

科目名：社会医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：100 配付数：99 回収数：29 回収率：29.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.2	4.0	3.2	4.1	4.3	4.2	4.3	3.9	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1

***評価に対するコメント**

社会医学科目責任者 **吉 田 貴 彦**

年度により変動があるが総合評価の4.1はおおむね良好であった。過去の評価と比較すると、試験の難易度が総合評価に大きく影響していると思われ、授業評価の趣旨とやや異なると思う。科目構成に対して科目内容はやや評価が低い、社会医学の範囲が統計データ、法規など理解とは異なる面白みに欠ける部分や、広い範囲のための統一感の無さが原因とも思われる。改善しにくい事だが、今後も興味を持たせやすい科目展開を試みたい。

科目名：臨床放射線学（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：100 配付数：100 回収数：12 回収率：12.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.4	4.0	2.9	3.8	4.1	3.8	4.1	3.5	3.3	3.7	3.4	3.4	3.8

***評価に対するコメント**

臨床放射線学科目責任者 **油野民雄**

当科目では核医学、放射線診断学、放射線治療学を担当させて頂いた。幅広い履修内容であったと思われる。学生からの科目に対する評価はおおむね良好であったが、「学生自身」の評価で予習、復習の項目が低い結果であった。「科目構成」は4点前後と比較的高く、「科目内容」では、講義内容の難易度と理解度と試験内容がやや低い結果であった。学生からは、履修内容が幅広く、もっと深く勉強したいとするものや、総合的な講義を取り入れて欲しいという意見があった。また、講義のスライドや配布資料が充実しており、講義の理解度や復習の際に非常に役立ったとするものがあった。来年度においても、臨床につながる講義を目指し、その内容や配布資料を充実させるとともに、学生の理解を増えるようさらに努力していきたい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅶ（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：100 配付数：98 回収数：17 回収率：17.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.2	4.1	3.0	3.5	3.5	3.3	3.6	3.1	3.3	3.5	3.4	2.6	3.4

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅶ科目責任者 **千石一雄**

臓器別Ⅶは産婦人科、小児科を中心に配偶子形成から、胎児発育、小児期の発達を中心とした授業展開であり、一定の評価を得たものと考えている。

従来と同様、試験問題を回収したが、その点に対する批判が見られ、学生への還元方法を検討する予定である。

科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：97 回収数：82 回収率：84.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.0	3.9	2.9	3.6	3.5	3.5	3.9	3.5	3.5	3.5	3.7	3.3	3.6

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅷ科目責任者 **小北直宏**

臓器別・系別講義Ⅷは、整形外科、麻酔科蘇生科、救急科の3科で構成されている。全体的な評価が昨年度下したため、若干の内容見直しを図ったが残念ながら評価は認められなかった。例年のコメント同様、麻酔科蘇生科および一部の救急部門の講義の1冊子が、学生達には好評なようで、今後は整形外科も含め検討したい。

科目名：情報リテラシー（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：56 回収率：91.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.7	4.6	4.1	2.2	3.7	4.1	3.6	4.1	3.5	3.7	3.6	3.5	3.6	3.7

***評価に対するコメント**

情報リテラシー科目責任者 **高橋 龍尚**

パソコンに馴染みのない学生がみられた一方で、よく使いこなせている学生もみられた。授業のペースは十分に意識されたものであるため、もしそれについていけない場合には個人的な練習が必要です。評価をみると予習復習の努力が不足しているかも知れません。慣れない人は、レポートの作成を通して徐々に上達しますので焦らずにじっくりと取り組みましょう。わからない場合には、投げ出すのではなく質問をしたりする努力が必要です。

科目名：生命科学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.4	3.8	2.7	3.9	3.9	3.9	4.1	3.7	3.9	3.9	4.0	3.8	4.2

***評価に対するコメント**

生命科学科目責任者 **林 要喜知**

総合評価が3.7（21年）から4.2（22年）に上昇したのは、これまでの授業改善の取り組みがある程度評価に反映されたためであろう。しかし、問9や13を含め、授業改善をはかる余地はまだまだ全体的に残されている。講義内容や資料の改善、さらには、質問や補習などの対応を充実させ、学生の理解度を高めていきたい。

科目名：看護基礎物理（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：58 回収数：58 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.6	3.8	2.5	3.6	4.1	4.0	4.0	3.9	3.7	3.8	3.3	3.9	3.9

***評価に対するコメント**

看護基礎物理科目責任者 **安濃 英治**

看護を物理学的視点から理解することを目的としていますが、高校で物理を履修していない学生が多くいますので、基礎物理に限定して難しくならないように教えています。今回、全体に評価が低かったため、講義内容がより理解しやすくなるように努力しなければいけないと反省しています。

科目名：看護化学（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：56 回収数：55 回収率：98.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.4	3.2	2.4	3.4	3.8	3.6	3.6	2.9	2.8	3.3	3.1	3.3	3.2

***評価に対するコメント**

看護化学科目責任者 **平塚 寿章**

看護学生に「化学」を学んでもらうとき、身構えることなく聴いてもらうには身近なテーマにしなければならない。しかし最低限の化学の知識を省くわけにはいかないのので、講義の組み立てにはとても苦勞する。「看護化学」では医療分野のテーマから入り、関連する化学の知識へと話を進めた。医療分野の話はよく聴いてもらった反面、本論の化学に入った途端学生たちは興味を失ってしまうように感じた。

科目名：医療史・医療哲学（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：61 配付数：57 回収数：57 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.5	4.7	4.1	1.9	3.8	4.1	4.2	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.4

***評価に対するコメント**

医療史・医療哲学科目責任者 **藤尾 均**

医療の歴史を学び医療のより良いあり方を思索する教養科目と位置づけた。DVDの活用、学生参加型の講義、文書によるフィードバックは「看護社会論」と同様である。歴史・哲学関係の科目にありがちな抽象的・観念的話は努めて避けた。担当教員として評価結果には納得できている。来年度は、学生に毎回書かせる作文を添削して返却する予定である。

科目名：看護社会論（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：61 配付数：57 回収数：57 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.5	4.5	4.1	1.9	3.8	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.4	4.2	4.5

***評価に対するコメント**

看護社会論科目責任者 **藤尾 均**

旧カリでは複数教員による「人間科学Ⅱ」2単位であった。科目名もコンセプトも曖昧で学生の評判はよくなかった。新カリでは「看護社会論」「医療史・医療哲学」各1単位に分け、計30コマをすべて私が担当している。学生が将来展望を切り拓くための教養科目と位置づけ、DVDを積極的に活用した。講義はクイズ形式とし学生の参加を促した。毎回作文を書かせ、質問はすべて翌週にフィードバックした。担当教員として評価結果には納得できている。

科目名：基礎看護学概論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：59 回収数：55 回収率：93.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.6	3.9	3.6	4.1	4.0	4.0	4.2	3.8	3.8	3.9	3.7	3.7	3.7

***評価に対するコメント**

基礎看護学概論科目責任者 **稲葉佳江**

本科目のねらいは、看護とは何かを各自で考えてもらうことです。看護の説明に必要な要素－人間・健康・環境・社会－について考え、そしてこれらの関係性を理解した上で、看護の目的や役割機能に関する初歩的な回答を求めた授業でした。しかし、1年生にとって抽象的な概念を学ぶ学習ほど面白くなく、難解なものはないということも十分理解できます。看護を初めて学ぶ皆さんにやさしく、わかり易く講義するために臨場感のある教材や学習方法の工夫・改善を今後も行っていきたいと思います。

科目名：統計学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：54 回収数：54 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.4	3.3	2.9	3.4	3.8	3.7	3.7	3.0	3.0	3.1	3.0	3.8	3.5

***評価に対するコメント**

統計学科目責任者 **高橋龍尚**

とても良くできる学年です。ただし、授業についてこられない人は、学習態度の見直しが必要です。授業中に寝ていたり、他の授業のレポートを作成したりと、時間の使い方に問題がありますので、学習効果は上がりません。このまま放置しますと、看護研究に影響をきたしますので自学自習の習慣をつけるよう期待します。

科目名：疾病論Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：58 回収数：57 回収率：98.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.0	3.8	3.4	2.4	3.1	3.3	3.3	3.5	3.2	3.3	3.3	3.6	3.3	3.5

***評価に対するコメント**

疾病論科目責任者 **木村昭治**

評価の受け止め方はいつも難しい。例えば同じ講義であってもほとんど役に立たないつまらない講義であったという学生がいる一方で、非常に興味のある内容で面白かったという評価をする学生もいる。どちらも正しい評価なのであろうがおそらくその学生の科目に対する準備状況やバックグラウンドの知識の程度によるところが大きいと思われる。疾病論はカバーする領域が広く講師は医学科の各科の多くの先生方にまたがっている。それぞれの得意分野を講義されており従って内容はレベルが高いと思われる。しかしながら限られた時間内で膨大な範囲を細かくカバーするのは不可能であることは明白で、重要なのはむしろ学んだことを基礎として自分で学習することであろう。その際に教科書を活用し不明な部分は自ら尋ねることでそれへの支援は各教官から容易に得られる。これに関連して少し気になるのは問1と問4の点数の低さである。学生諸君の評価の善し悪しの判断根拠に授業内容において重要点の指摘があるかないかが良く出てくるがこれは自分の学習の結果、各主題で何が重要なのか自身が判断するものであって他人に指摘されるべきものではないのではないか。そういうトレーニングこそ大学生には必要なのではないか。

科目名：発達心理学（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：56 回収数：54 回収率：96.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.1	3.6	3.2	3.6	3.8	3.6	3.8	3.7	3.9	3.7	3.9	3.5	3.9

***評価に対するコメント**

発達心理学科目責任者 **高橋雅治**

学生自身についての評価では、「出席」と「努力」が4.1、3.6と高かったが、「予習」の評価は2.6と低かった。今後は、予習の指導につとめる必要があると思われる。

また、科目構成についての評価は全項目について3.6から3.8と中程度から高程度の評価が得られた。また、科目内容についての評価は、3.7から3.9と比較的高い評価であった。このことから、全体の進行や指導力は適切であったと思われる。

一方、「試験や提出物の量」の評価は3.5と低かった。この理由としては、5回のレポート提出が学生の負担になっていることが考えられる。今後は負担の軽減を検討したい。

また、全体の満足度は3.9であり、比較的高い結果となった。これは、発達心理学の基礎知識を精査して講義を構成したこと、プリントを毎回配布したこと等によるのではないかとと思われる。

科目名：看護過程論（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：59 回収数：46 回収率：78.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.6	3.9	3.6	3.8	3.7	3.4	3.9	3.7	3.6	3.6	3.8	3.3	3.8

***評価に対するコメント**

看護過程論科目責任者 **升田由美子**

新カリキュラム施行に伴い、アセスメント能力の向上を狙い前年と内容を変更しました。ゴードンの機能的健康パターンをアセスメントの枠組みとして用い、対象者の生活を理解し看護過程を展開、看護実践へとつなげるプロセスは今後の看護学の基盤となる学習です。個人がグループワークで学習を十分深められていなかったことは今後の検討課題とします。看護倫理の学びは各自の看護観醸成のきっかけとなったと感じています。

科目名：情報科学（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：70 配付数：61 回収数：50 回収率：82.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.5	4.2	3.3	1.9	3.4	3.5	3.5	3.5	2.6	2.6	2.8	2.7	3.9	3.3

***評価に対するコメント**

情報科学科目責任者 **高橋龍尚**

この学年はとても勤勉な学生がいる一方で、1年生からの怠惰な学習習慣のまま学年を積み重ねてきた人が多く見受けられます。1年生からの態度が改善されていない人は、深刻な学力低下をきたしているように感じられます。質問にはいつでも対応しますので困った時にはお尋ね下さい。

科目名：精神保健看護学（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：71 配付数：52 回収数：49 回収率：94.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	3.9	3.3	2.9	3.6	3.8	3.8	3.8	3.9	3.4	3.4	3.0	4.0	3.4

***評価に対するコメント**

精神保健看護学科目責任者 **作宮 洋子**

自由記載では様々な意見が述べられ、精神保健看護を学ぶ真摯な姿勢が伝わってきて、学問に取り組む厳しさや難しさを痛感しています。精神保健看護は人の心の働きに注目し、回復を支える役割を果たすことが大切です。今後とも、教員は、学習における学生との対話をしながら、自他への深い洞察力や確実な看護実践力を身に付けられるよう努めますので、学生の皆さんも自己学習に励んでいただきたいと思います。

科目名：地域保健看護学Ⅱ（看護学科第3・編入第3学年前期／必修）
履修者数：70 配付数：69 回収数：69 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.3	4.0	3.8	4.1	4.3	4.0	4.2	4.0	4.1	4.0	4.0	3.7	4.2

***評価に対するコメント**

地域保健看護学Ⅱ科目責任者 **藤井 智子**

この科目では保健師が行う一連の看護過程の基礎を学びます。看護の対象は、個人にはじまり、集団、地域全体へと広がっていくのですがこのプロセスを理解するのは大変だったことと思います。30時間でお伝えするには、講義も駆け足であり、宿題も必然的に多くなります。学生と講義を一緒に作り上げるというのが私のスタイルなので発言を促すことも多く、講義の進行は遅れました。それでも総合評価では高い評価を得られ、みなさんの努力に感謝です。今後は実習で更に学習を深めることを期待しています。

科目名：小児看護学（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：71 配付数：60 回収数：59 回収率：98.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.4	3.6	2.9	3.5	3.6	3.3	3.5	3.4	2.9	3.3	3.1	3.1	3.1

***評価に対するコメント**

小児看護学科目責任者 **岡田 洋子**

多くの学生が自分自身の取り組み状況を（事前予習2.1、復習・宿題2.9）自己認識できており、成長を感じます。講義企画に対する評価は、多くが中央値を中心に双曲線を描いており妥当な評価と考えます。授業にはよく出席している学生、大学で学ぶとはどういうことなのか、予習・復習を含め「自ら学ぶ能力」を養うことができるよう、今後も講義、個人・グループワークを併用し取り組みたい（大きな声、分かりやすい内容は引き続きの課題）。

科目名：母性看護学（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：61 配付数：61 回収数：61 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.2	4.2	3.3	4.1	3.8	3.7	4.1	3.8	4.2	4.0	4.5	4.0	4.4

***評価に対するコメント**

母性看護学科目責任者 **黒田 緑**

本科目は4学年の母性看護学実習につながっていく科目である。その意味において「今後の学習意欲を増す」という評価項目は大きな意味があり、今回は4.5であった。しかし、学生自身の予習復習に関する評価は低く、学生が主体的に取り組むための工夫が必要である。内容の重複については、同じテーマでも異なる視点から考察するためと考えるが、適度な重複がよい復習になるとの自由記載意見もあった。単なる重複ではなく、多面的に考える必要性を強調していきたい。

科目名：老年看護学（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：59 回収率：98.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.1	3.7	3.1	4.1	4.2	4.1	4.0	4.2	4.2	4.0	3.9	4.0	4.2

***評価に対するコメント**

老年看護学科目責任者 **服部 ユカリ**

科目構成、科目内容に対する評価は問12の「今後の学習意欲を増すものであったか」以外は4.0以上で高い評価であったが、問12は3.9でやや低く、学習意欲や主体的な学習を促すような講義を目指していたのでこの結果は残念であり、今後さらに工夫したい。

この科目はほとんど1人で講義しており、授業評価の項目として問6は必要なのか、問7の時間のバランスの適切さは学生が評価できるのかなど評価項目や、同一科目で項目は異なるとはいえ2回授業評価をすることの意味に疑問が残る。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎生物学実習（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：112 配付数：104 回収数：102 回収率：98.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.9	4.6	4.3	4.6	4.4	4.7	4.4	4.3	4.5	4.2	4.1	3.9	4.3	4.5	4.6	4.6	4.6

***評価に対するコメント**

基礎生物学実習科目責任者 **立野 裕幸**

総合評価は4.6で、昨年度と同様に好結果でした。この実習は顕微鏡観察、解剖、DNAの電気泳動など医学的な内容を取り入れており、これが入学して間もない学生の勉学意欲を刺激しているようです。また、実習経験がほとんどない学生が対象であることから、常に複数の教員が指導に当って、積極的に学生に声をかけたり、質問対応したりするよう心がけています。毎年のことですが、問1（予習）のポイントが他に比べ低くなっています。この点を改善できるようにこれからも指導法に工夫を重ねていきたいと考えています。

科目名：組織学実習（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：105 配布数：99 回収数：61 回収率：61.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.9	4.8	4.3	4.7	4.0	4.3	4.1	4.5	4.4	4.2	3.7	3.6	3.8	4.0	4.3	4.0	4.0

***評価に対するコメント**

組織学実習コーディネーター及び授業担当教員 **渡部 剛**

組織学実習では、プレテスト、レポート、スライドテスト、出席の4つの面でのパフォーマンスを総合して成績評価を行うため、受講生には、予習、復習も含め、かなりの学習量が要求される。それが問1～3（学生自身の自己評価）での数値の高さ（ほぼ5点）に現れており、我々教員も、今年度の学生の努力は高く評価している。幸い、今年度の受講生には実習の目的や意義についても良く理解していただけたのか実習企画全体に対する評価も悪くないので、来年以降も実習方法、成績評価方法を変えずにこの科目を進める予定である。

科目名：生化学実習（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：105 配付数：105 回収数：87 回収率：82.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.8	4.9	4.5	4.3	4.3	4.1	4.1	3.9	4.1	4.6	4.1	3.7	3.5	3.5	3.3	3.9	3.9	3.8

***評価に対するコメント**

生化学実習科目責任者 **谷口 隆信**

この実習は酵素を自分たちで精製し、それを材料に酵素の性質を究めるべくアッセイをやっていく段取りになっているのですが、班の中でうまくチームワークを組んで全体の流れを見失わないように上手に分担していく必要があります。チームワークは医療の現場で大変に重要なポイントであり、予習・打合せの重要性に気付き臨床にも活かして頂きたいと思います。今回は「暑かった」が29件とダントツでしたが、人智を超えた気象のことで、巡り合せだったとしか言いようがありません。次いで、「よい充実した実習だった」というコメントが10件あり安心しました。「分光計やピペットの不足」も10件、「きつかった」5件など頂いています。機械類の老朽化や不足については、我々も認識しており、学長先生にお願いして少しずつではありますがデジタル化を進めており、今年度は2台、来年度にも1台入替える予定です。ただ、分光光度計は50万円以上しますし、クレーンになると更に桁が違ってくることは理解して頂きたいと思います。これは臨床でも同じことで、すべての病院にPETやヘリカルCTは備わっていないと思います。アナログでもデジタルでも、その場の機械を上手に使い、できる範囲で患者さんのために最善を尽くす、皆さんが大学を離れた時に、ほろ苦いセピア色の「熱かった」実習として、思い起こして頂ければ、スタッフ一同嬉しく思います。

科目名：免疫学実習（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：105 配付数：95 回収数：70 回収率：73.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.1	4.7	4.4	4.0	4.3	4.1	4.2	4.0	4.1	4.0	3.9	4.0	3.5	4.0	3.8	3.9	4.0	4.0

***評価に対するコメント**

免疫学実習科目責任者 **伊藤喜久**

免疫学の実習は将来にわたって病態生理に基づく考える医師となるための動機づけを与える重要科目の一つです。

今年度もおおむね高い評価をいただきました。色々な角度から実習を通じて学べる面白さが好評を得たものと思われま。個別のコメントについても担当各課に周知しており、明年度についてもより良い実習を準備する所存です。

科目名：骨学実習（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：105 配布数：103 回収数：50 回収率：48.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.8	5.0	4.5	3.9	4.0	3.9	4.3	3.9	3.9	3.9	3.7	3.8	3.7	3.8	3.4	3.9	3.9	4.0

***評価に対するコメント**

骨学実習コーディネーター及び授業担当教員 **渡部 剛**

新カリキュラムの学年進行に伴って、本年度から、骨学実習が独立した科目となったが、内容は昨年度から大きな変更はない。実習の企画・実施に対する学生からの評価はおおむね良好であるが、近日中にさらに来年度に向けて、2年次後期の形態学実習や3年次以降に展開される臨床医学との接続をより良くする方向で、本科目を担当する基礎講座と臨床講座で相談し、実習計画や評価方法の見直しを行う予定である。

科目名：基礎医学実習Ⅱ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：93 配付数：89 回収数：73 回収率：82.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.6	4.1	4.1	4.4	3.9	3.9	3.6	4.1	4.2	3.7	3.9	2.7	3.6	3.3	3.7	3.5	3.7

***評価に対するコメント**

基礎医学実習Ⅱ科目責任者 **柏柳 誠**

基礎医学実習Ⅱでは、テーマごとにレポートの提出を求めている。本年度は、レポートの量に関する問13のポイントが2.7と例年以上（悪くても3.1）に低い値となった。最近論理的に考察し、文章を書く機会が以前と比べて極めて減少している。したがって、学生からの評価が低くなることを承知の上で、各課題に関するレポートの提出を求めることが担当教官のコンセンサスとなっている。そのため、これからは従来通り、レポートの提出を課題としたい。ただし、レポートの提出期限が短いとの指摘が6件あった。例年、次の実習の支障にならないようにレポートの提出期限を勘案してきたが、次年度からは少し検討を加えたい。また、教員の交代に伴う指導の不備に関する指摘がなされた。次年度は、指摘を踏まえて改善したい。

科目名：基礎医学実習Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：93 配付数：92 回収数：55 回収率：59.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.7	4.9	4.4	4.3	4.6	4.3	4.5	4.4	4.3	4.5	4.1	4.3	4.5	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4

***評価に対するコメント**

基礎医学実習Ⅲ科目責任者 **牛首文隆**

基礎医学実習Ⅲでは、生体に薬物を投与し、どのような作用が現れるかを観察し、得られた結果から妥当な結論を考察することにより、講義で得た知識を定着させることを目的としている。今回の実習に対する評点は、すべての項目で高いものであったが、実習では、予想通りの結果を得ることができない場合もあった。このような場面で、何が良くなかったかを考えることを是非心がけて頂きたいと思う。薬理学に限らず、多くの分野で予想と違った結果から新しい知見を得ることが多いからである。今後も、より充実した実習を目指すために、いろいろな意見を遠慮なく頂きたいと思っている。

科目名：基礎医学実習Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：92 配付数：80 回収数：42 回収率：52.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.3	4.7	4.2	4.0	4.3	4.0	4.3	4.1	4.3	4.4	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.2	4.1

***評価に対するコメント**

基礎医学実習Ⅳ実習科目責任者 **若宮伸隆**

例年と同じく、今年度の本実習に対する受講生諸君の評価は問1と11を除いて全て平均4点以上であり、高い評価をいただけたと思います。問1「事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか」に対しても、3点以上が80%を超えており、実習書の事前通読は定着して来ていると思われます。

自由記載の欄に、病原体取扱いに関する安全確保の方法及び実験動物取扱いに関する感想が記載されていました。他大学での感染事例を契機に、医学部微生物学実習における感染防止対策が国内で標準化されつつあり、本学でもいち早くこれを採用して現在のシステムに至っています。また、動物実験を取り入れている寄生虫学講座からは、「マウスを素手で扱うのが危険との指摘がありました。マウスの扱いは医学研究の基本であり、学生実習で経験すべきことと思われる」というコメントが寄せられています。

本科目は、次年度からは「微生物学実習」ならびに「寄生虫学実習」としてそれぞれ独立して実施する予定になっています。学生諸君が興味を持って参加できる実習を続けて行きたいと考えています。

科目名：基礎医学実習Ⅴ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：92 配付数：90 回収数：48 回収率：53.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.5	4.8	4.2	3.7	4.0	3.4	4.1	3.9	3.9	3.8	3.3	3.4	3.6	3.7	3.6	4.1	4.1	3.8

***評価に対するコメント**

基礎医学実習Ⅴ科目責任者 **西川祐司**

高い自己評価が裏付ける通り、大部分の学生諸君は実習に積極的に取り組んでいたように思われた。到達目標が不明であるとの意見があったが、ここまでできればOK、という具体的な目標設定を設けること自体に無理がある。標本を謙虚に観察し、病理診断に至る試行錯誤のプロセスを大事にして欲しい。事前の資料配布、空調設備の要望や実習標本の不備、腫瘍病理の教官の不足、試験時期の悪さ（医大祭直後）に対する指摘は真摯に受け止め、今後改善していきたい。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.7	4.5	4.2	4.3	3.9	4.1	3.8	4.1	4.4	3.7	3.9	3.8	4.2	3.9	4.2	3.9	4.2

***評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅱ科目責任者 升田由美子

事前学習課題と講義を通して根拠を学んだ後、実習室で演習を行うことで、フィジカルアセスメント、注射に関する看護技術を習得する科目です。課題やレポートが多く、勤勉さが求められる科目ですが、課題を行うことで学習・技術の目的も明確になったと思います。次年度に向けて、課題提出のタイミングと提出物に関するフィードバックの適時性を検討します。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実習計画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実習内容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実習環境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総合評価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
- ④ やや思う（良い）
- ③ どちらとも言えない（普通）
- ② あまりそう思わない（あまり良くない）
- ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎看護学実習（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：61 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.5	4.5	3.9	4.7	4.5	4.1	4.4	4.4	4.5	4.4	4.5

***評価に対するコメント**

基礎看護学実習科目責任者 一條明美

基礎看護学実習のねらいは看護に対するモチベーションの向上です。看護師と共に看護実践場面を見学し、入院患者の生活と看護を理解することが主な目的です。評価は問4をのぞくすべての項目で4.0以上であり、昨年と比較して0.2～0.6ポイントの上昇でした。これは学生の皆さんが真剣かつ真摯に実習に臨んだ結果と捉えています。自由記載の内容に関しては、教員、実習指導者間で検討し、よりよい実習となるよう努力していきたいと思っています。

ブラスアンサンブル OB演奏会

平成22年10月11日(体育の日)14時00分より学生食堂におきまして、本学学生団体であるブラスアンサンブルの「OB演奏会」が開催されました。このコンサートは、その名のとおり「OBと現役学生」が3年に一度(オリンピックより短い)開催するコンサートです。通常は病院玄関ロビーにて開催してい

るのですが、本年は、諸事情により学生食堂にて開催されました。入院されている方々に音楽を聴いていただくことも目的の一つであることから会場が変更されて聴きに来られる人数を心配したところ30~40名以上の方々が休日の学生食堂に足を運んでいただき盛況なコンサートとなりました。



秋の病院ロビーコンサート

平成22年11月6日(土)13時30分より室内合奏団が「秋の病院コンサート」を、16時00分よりギター部が「オータムコンサート」を開催しました。どちら

のコンサートも短い秋を惜しむようなバラード系の曲を演奏し沢山の拍手が贈られていました。



クリスマスコンサート（室内合奏団）

平成22年12月18日（土）13時30分から病院玄関ロビーにおきまして、本学の室内合奏団により「クリスマスコンサート」が開催されました。欧米の有名なクリスマスキャロル「Joy to the World」（もろびとこぞりて）から始まりアンコール曲の「きよし

この夜（Stille Nacht）」までクリスマスソング全9曲が演奏されました。途中、サンタクロースが現れて来場された皆様に手作りのクリスマスプレゼントを渡し大変喜んでいただいたようです。



クリスマスコンサート（合唱部）

平成22年12月18日（土）16時00分から病院玄関ロビーにおきまして、本学の合唱部により「クリスマスコンサート」が開催されました。3部構成により第1部は雪（ゆきやこんこ・・・）で始まり男声、女声コーラスそれぞれの曲を含めた6曲が演奏されました。第2部では新たな試みとして学年毎の演奏（キューティーハニー♪など）を披露して温かい拍手が贈られていました。第3部は定番のクリ

スマスソングが5曲演奏され、全16曲という大規模の大きなクリスマスコンサートとなりました。演奏中には可愛いサンタクロースやトナカイ、くまのプーさんが登場してダンスの披露と手作りのクリスマスプレゼントを手渡していました。来場の皆様の心に優しい歌声や演奏を届けられたようで沢山の拍手が贈られて幕を閉じました。



クリスマスコンサート (ブラスアンサンブル)

平成22年12月19日(日)14時00分から病院玄関ロビーにおきまして、本学のブラスアンサンブルにより「クリスマスコンサート」が開催されました。毎年恒例のコンサートですが、今回も沢山の皆様が来場されました。

演奏は3部構成による全16曲で、「海賊ステージ」と題しました第1部ではアニメ主題歌「ウィーアー！」など3曲を、小編成の第2部では、楽器紹介を交えながらリコーダー・アンサンブルが2曲、曲のイメージに扮装した部員によりまずユーフォ・アンサンブルが4曲、寸劇(ショートコント?)を交えなが

らホルン・アンサンブルが2曲、それぞれが趣向を凝らした演出でコンサートを盛り上げました。

クリスマス・ステージと題しました第3部では「サンタが街にやってくる」などのクリスマスソングをサンタクロースの扮装をした1年生部員がダンスを披露しながらの演奏など4曲が演奏されました。最後にアンコール曲としてAKB48「ヘビーローテーション」をAMU48?が踊りを披露しての演奏となり、演奏時間が2時間となったコンサートは来場された皆様に飽きさせる事無く大盛況のうちに終了しました。



外国人留学生交流事業

平成22年度の外国人留学生交流事業が11月23日(火)・24日(水)の2日間の日程で、本学に留学している学生とその家族、研究者として在籍する外国人とその家族及び関係職員の9カ国、計27名が参加して実施されました。

今年度は、小樽市内の博物館、運河、オルゴール堂等を見学後、定山溪温泉を宿泊地として計画されました。

この事業は旭川市内近郊だけではなく、北海道内の名所を外国人留学生及び帯同されている家族の方々に観てもらい、北海道の良さを再認識してもらうこととともに、様々な国から来日されている留学生同士の交流及び外国人留学生と職員との交流を図るこ

とを目的としたものです。

当日は、午前中に旭川を出発し、小樽市内で昼食後に博物館、運河、オルゴール堂等を見学しました。外国での生活や研究等で疲れた心身もオルゴールの音色には癒されたのではないのでしょうか。その後、夕方に定山溪温泉の宿泊施設に到着し、夕食の後にカラオケを交えた交流会が実施され、普段はなかなか話をする機会の少ない職員とも大変賑やかな中で意見交換が行われ、最後は「ウィーアー・ザ・ワールド」を全員で熱唱し、交流会が終了しました。翌日は昼過ぎに本学に到着し、外国人留学生交流事業が無事終了しました。



小樽市総合博物館



小樽運河にて



宿泊施設にて

教員の異動

H22.10.14	昇任	医学部救急医学講座	准教授	赤坂伸之
H22.11.30	辞職	病院 第一内科	講師	長内忍
H22.12.1	昇任	病院 第一内科	講師	小笠壽之
H22.12.1	採用	病院 第二外科	講師	谷口雅彦

インフォメーション

本学の行事予定（1月～3月）

大学病院ロビー コンサート	ギター部 「ニューイヤーコンサート」	平成23年1月22日(土) 15時00分より
	JAZZ研究会「第2回 丘の上のJAZZ」	1月29日(土) 15時30分より

冬季休業	医学科 1年・2年	(12月20日～1月11日)
	医学科 3年・4年	(12月20日～1月4日)
	医学科 5年	(12月20日～1月3日)
	看護学科 1年・2年	(12月20日～1月11日)
	看護学科 3年・4年	(12月20日～1月7日)

後期試験週	医学科 1年・2年	(2月14日～2月25日)
	医学科 3年	(2月7日～2月25日)
	医学科 4年	(1月25日～1月28日)
	看護学科 1年・2年	(2月14日～2月25日)
	看護学科 3年	(2月7日～2月25日)

平成23年3月25日 学位記授与式

平成23年度授業料の一括納付について

授業料は、前期分を納付する際に後期分も併せて年額として一括納付することができます。
希望される方は、下記の期限までに印鑑を持参のうえ、事務局管理棟1階の会計課出納係へ申し出て下さい。

申込み期限 平成23年4月11日(月)

※一括(年額)納付については、毎年手続きが必要となりますので注意して下さい。

(会計課出納係)